

令和2年度シラバス

教科名	芸術	科目名	美術 I	履修学年	1 年生	履修形態	選択必修
単位数	2 単位	時 数	70 時間 (50分授業)	担当者名	金谷 範子		

教科書	出版社名 光村図書「美術 1」	副教材	
-----	-----------------	-----	--

学習目標	<p>1・幅広い造形活動をととして美的体験を豊かにし、芸術における多様な意味性や価値観を学びながら表現の諸能力を伸ばす。</p> <p>2・造形活動を＜自己―他者―社会＞の関係性の中に開かれたものとして位置づけ、インタラクティブな行為性と自己発信力を高める。</p> <p>3・造形活動をととして芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術文化を愛好する心情を育てる。</p>
指導の重点	<p>1・美術の幅広い表現活動や観賞に主体的に親しむことを目指します。</p> <p>2・美術で使用する一般的な用語を理解し、基本的な知識や技法の学びを進めます。</p> <p>3・造形活動を通して表現の楽しさを経験するとともにその達成感を味わうことを目指します。</p> <p>4・準備や片づけ・整頓をきちんと行い、また道具類を大切に扱う態度を育てます。</p>

学期	考 査	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
					関	発	技	鑑
第 1 学期	中 間	課題「training ―絵画って何だろう」(絵画)	16	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び性を含んだ表現のトレーニングによって「絵画表現」に対する固定的な縛りから生徒を解放し、表現することを楽しむ。 ・新聞や雑誌などのメディアから現代社会の様相を表すいくつかの言葉を切り抜き、意味性を拡張したりずらしたりしながら文脈をつくる。画面にそれらをコラージュしてイメージを視覚化する。この時、「編集する」という意識を持つ。 	○	○	○	○
	期 末	課題「BOX ART」(彫刻)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・木箱という小さな空間の中に、自己の内面的世界をテーマに沿って表現する。 ・言語領域と造形領域をクロスさせる。 ・多様な材料を使い特性を研究する。 	○	○	○	○
第 2 学期	中 間	課題「community-文化祭プロジェクト・1」(絵画・彫刻・デザイン)	16	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して相互行為的に制作を展開させ、協働的に関わることで社会的関係性のあり方を学ぶ。 ・他者の多様なアイデアが加わることによって、そのつど画面や立体が変化し、新しい意味性が生成することを体験する。 ・造形活動を通して学校空間という日常的なコミュニティを活性化させる。 	○	○	○	○

	期末	課題「community- 真冬の夢 in 安塚」 (デザイン)	14	<ul style="list-style-type: none"> ・安塚区という大きなコミュニティヘアートで発信する。 ・渡り廊下の窓にステンドグラス風の作品を飾り、夕方から雪景色に美しい光を投影して冬のランドマーク効果を図る。 	○	○	○	○
第3学期	学年末	課題「design-平面構成・1」 (デザイン)	16	<ul style="list-style-type: none"> ・○△□や直線曲線などの基本的な造形要素を組み合わせる幾何構成する。混色や重ね塗りによる色彩の効果を体験する。 ・色彩についての基本的な知識と用語を学ぶ。 	○	○	○	○

計 70 時間 (50 分授業)

※ 評価の観点 関：関心・意欲・態度 発：発想や構想の能力
技：創造的な技能 鑑：鑑賞の能力

(評価の観点)

	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価の観点	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や芸術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的で豊かな表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を工夫している。	美術作品に見られる表現の工夫や芸術文化を理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	授業態度 表現意欲 提出物頻度	アイディア性 制作過程	表現性 制作過程 材料活用性	視点性 レポート

担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動は、場と人、人と人をつなぐ有効なメディアとして機能しています。小規模校の特性をふまえて、活動を通じた共通の関心とコミュニケーションを喚起していくことを意識しています。また、学校もひとつのコミュニティとして位置づけ、学校空間が活性化する展示方法を試みています。 ・造形活動が新たな次元へと展開していく課程で、「いま・ここ」にそのつど自己更新していくダイナミズムを経験することで、多様な社会的場面に積極的に参画する意欲を喚起したいと思います。
---------	---